

令和6年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	40	学校名	静岡県立科学技術高等学校	記載者	田中 学
------	----	-----	--------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	日常の学習習慣を定着させる。	「授業に主体的に取り組んでいる」と答える生徒90%以上 「授業の内容がよく分かる」と回答する生徒90%以上 「教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めている」と答える保護者80%以上	B B B	B B B	数値目標は下回ったが、達成状況は0.9 ポイント増となり成果が見られたと思います。また、目標達成には至っていませんが、これは目標がかなり高く設定されているためであり、良質な授業が行われていると推測します。3項目ともとても高い達成状況と評価します。 広報戦略の一環として、授業内容の動画配信や発表会等の積極的な公開を期待します。
	1日の授業、課外活動、家庭学習の合計学習時間が10時間となる生徒50%以上。 「学習と部活動等の課外活動が両立できている」と答える生徒70%以上	B B	B B	B	生活スタイルの変化(年々減少傾向)がある中で、現状維持ができるのは教職員の努力の結果だと思います。 授業時間は変わらない以上、課外活動や家庭学習の時間が問われます。既進学者や就職者の情報として、生徒にデータで還元していくことを推奨します。
	教養力テストの実施	A	A	A	開校当初は、就職試験対策と位置付けて実施しました。しかし、近年は進学者が増え、テストへのモチベーションが低下しており、さらに8割以上の生徒が教養力テストを実施しなくても自分で就職試験対策ができると回答しています。
	手帳やICT端末の活用等により、「生活習慣を整え、学習時間やスケジュールの管理ができている」と答える生徒60%以上	B	B	B	達成状況が大幅に改善されたことは評価できます。教員、生徒だけでなく、保護者も活用できるようにインターネットカレンダー形式(iCal)による情報提供をお勧めします。

様式第5号

個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	「自分の将来に対する夢や希望を持っている」と答える生徒80%以上	B	A	3年間を見通した有意義な指導体制が確立していると感じます。 進路を決定する3年次に8割を超えていることが大切であると考えます。単年度でなく3年間を通して評価として、先生方のご指導の賜物であると考えます。
	「信頼できる先生がいる」と答える生徒80%以上	B	B	学校全体で取り組み、チームとしての指導体制が確立していると思います。生徒のニーズに対応するためには、教員の信頼は重要な要素であると考えます。
	「きめ細やかで適切な進路指導がなされている」と答える保護者80%以上	A	A	保護者の要望と教員の業務負担のバランスをどのように調整していくのか、学校としての体制づくりが真の課題と感じます。 3年生の保護者の評価がとても高いので、良質な指導が行われていると感じます。
国公立大学合格者70人以上 就職内定率100%	国公立大学合格者70人以上	A	A	教職員の努力の成果だと思います。推薦での合格者人数のみでは判断できない部分がありますが、おそらく例年通りであれば到達できるという判断でしょうか。推薦合格者人数と、共通テスト受験者数を分けて指標化しても良いのではないでしょうか。
	就職内定率100%	A	A	
部活動を効率的に実施する。	「部活動に参加している」生徒80%以上	A	A	人間関係や自己有用感など色々なことを学べる機会であると感じます。 地域移行に伴い、部活動の在り方は大きく変わる部分だと考えます。部活動によるリーダー育成も困難になる可能性があるため、指標の再考が必要と判断します。
	「学校が楽しい」と答える生徒80%以上	A	A	課外活動も含め「学校が楽しい」生徒が多いということは学校運営が好循環につながるっていると思います。
	「部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができた」と答える教員90%以上	B	B	「学校が楽しい」と答える生徒が80%以上は決して簡単な目標ではないと思います。高い目標を設定し達成できたことは素晴らしいと思います。 教職員の負担軽減も併せ、バランスの取れた指導方法(体制)を考えいく必要があると思います。

様式第5号

	<p>生徒主体の活動を推進する。</p> <p>生徒会が企画した事業の実施 年2回以上</p> <p>地域連携やボランティア活動参加者の増加</p>	A	A	<p>事業の企画、運営は関わった生徒たちに大きな学びを与えたことと考えます。</p> <p>地域社会においての役割を担うことはとても大事なことです。</p>
イ	<p>探究的な教育活動を推進する。</p> <p>課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEAM 教育等の教科横断的な取組を実践する。(大学や企業等との連携)</p>	A	A	<p>課題研究の成果は1・2学年時の積み重ねにより成立していると考えます。社会的な問題に対して、ものづくりによる解決策を提示できることが工業高校の特徴であるため、地域と連携したテーマによりステークホルダーを意識した活動となることを期待します。</p> <p>生徒の探究活動を高めるためには、教員の探究活動の充実も大切です。高校段階での取り組みの成果を学会や研究会などで発表していただけると更に視野が広がるものと考えます。</p> <p>【機械工学】 進学者に対して支援体制ができるることは素晴らしいと思います。</p> <p>【ロボット工学】 14テーマの探究活動に大変興味を持てます。</p> <p>【電気工学】 小中学生を意識した学習(作品づくり)は高校生にとっても有意義です。</p> <p>【情報システム】 日進月歩の分野で教職員のご苦労がうかがえます。</p> <p>【建築デザイン】 出前授業や現場見学など本物とふれあう機会を設けていることは素晴らしいです。</p> <p>【都市基盤工学】 実務的な学習が進んでいることは素晴らしいです。</p> <p>【電気物質工学】 将来を見据えた研究課題学習に取り組むことは評価に値します。</p> <p>【理数】 課題研究活動や論文報告の機会を設けていることは素晴らしいです。</p>

様式第5号

	<p>専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。</p> <p>全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞 国家資格等の高度な資格に挑戦させ、受験者数及び合格者数の増加。</p>	A	A	<p>各学科における専門的な知識や技能の向上は大切ですが、科学技術高校として全科共通の工業的な知識や技能を設定することは難しいでしょうか。技術者理論に加え、Society5.0に向けた工業系人材に求められるICTスキルを企業等の意見も踏まえて検討できると強みが増すと考えます。</p> <p>【機械工学】 1年時から大会に参加できることは素晴らしいです。</p> <p>【ロボット工学】 ものづくりという創造性を養う学習向上に教職員の努力が伺われます。</p> <p>【電気工学】 資格試験（電験三種・第一種電気工事士）の合格人数は教職員の努力の賜物です。学校へのゆるぎない信頼の一つであります。</p> <p>【情報システム】 大会参加は生徒たちの自信につながります。</p> <p>【建築デザイン】 生徒に寄り添った時間外指導は生徒の成長には欠かせず、教職員ならではのジレンマであるが、働き方改革の点から指導方法の工夫が必要だと思います。</p> <p>【都市基盤工学】 明確な目標、ジュニアマイスターの取組は生徒にとっての励みになります。</p> <p>【電子物質工学】 試験日の告知は他学科の生徒たちにも有益だと思います。</p> <p>【理数】 発表の場やチャレンジの機会を大切にすることは、生徒たちの自主性の伸長につながります。</p>
	<p>全学科で技術者倫理に関する指導を行う。</p>	A	A	技術の進化が激しい中、内容の更新されていることと思います。

様式第5号

ウ	グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。	一層充実した語学研修が実施できるよう検討する。 英語検定等の受験者数の増加 (C E F R B 1 及びA 2 レベルの生徒数の増加) 羅東高校（台湾）と連携し、交流を促進する。	A A A	A A A	学んだ語学が実際に活用できる機会（海外研修）があることはたいへん有意義であります。
	持続可能な社会の一員としての素養を育成する。	「挨拶がしっかりとできている」と答える生徒95%以上 「身だしなみがしっかりとできている」と答える生徒95%以上 「スマートフォン・携帯電話は適切に利用している」と答える生徒80%以上	B B B	A A B	目標値は90%以上でよいのではないかと思います。とても高い水準にあり、先生方の指導の賜物と評価します。 生徒心得に関して生徒の自主性も尊重したいです。
	生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上 図書館来館者数延べ 6,000人以上	A B	A B	A	75%以上が適切に利用しているのは立派だと思います。スマホ（ネット）を介して被害者にも加害者にもなりやすい世の中です。適切に利用していると答えた生徒も含め、決して安心できる環境ではありません。 活字離れの中、新聞や図書の利用に尽力されていると感じます。 貸出冊数だけでなく、読書冊数で評価する方法もあるかと思います（カウントは自己申告になりますが）。
	インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度 90%以上	A	A	A	将来を見据えたライフプランにつながると感じました。
	資源の大切さを意識させるとともに、「3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいる」と答える生徒 70%以上	A	A	A	3S活動の向上は今後、社会に出たときに役立つと感じます。 前年度から大幅に高まり、先生方のご指導に感謝いたします。 昨年度比25.1ポイントも伸びて良かったと思います。
	「交通ルールの遵守に心掛けている」と答える生徒90%以上	A	A	A	交通ルールの遵守に関しては、今後も継続すべきです。

様式第5号

エ	<p>カリキュラム・マネジメントを推進する。</p> <p>令和6年度から学校運営協議会制度を導入する。</p>	<p>新しい教育課程の編成</p> <p>令和6年度から学校運営協議会制度を導入する。</p>	A	A	<p>新教育課程に即したカリキュラム変更は評価に値します。</p>
	<p>特別支援教育体制を確立する。</p>	<p>「教育相談だより」を、月1回以上発行</p> <p>1年生全員を対象としたカウンセリングを実施</p> <p>個別の指導計画及び支援計画の作成</p>	A	A	<p>個別の支援計画を作成し、個々の生徒に寄り添うことは生徒自身にあわせて保護者の学校への信頼につながっていると思います。</p> <p>特別な支援を必要とする生徒の数は年々増加していると思われます。合理的配慮の判断も難しいところがあると想定しますが、適切に対応していただくことに期待いたします</p>
	<p>教職員の資質・能力の向上を支援する。</p>	<p>「研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた」と答える教員90%以上</p> <p>授業参観した教員70%以上</p> <p>授業力自己診断を実施した教員90%以上</p> <p>多様な測定ツールを用いてP D C Aサイクルによる授業改善に取り組んだ教員90%</p> <p>「観点別評価を適切に実施している」と答える教員70%以上</p> <p>「日常的に授業でI C T機器を活用した」と答える教員60%以上</p>	A	A	<p>教職員の向上心が学校改善につながり、生徒や保護者、地域の信頼を厚くするものだと思います。</p> <p>インプットだけでなく、アウトプットの場として、学会や研究会等での発表の充実を期待いたします。</p>
	<p>教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。</p>	<p>メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修を随時実施</p>	A	A	<p>引き続きの研修を期待します。</p> <p>教職員の体調不調は生徒にも影響を与えかねません。特にメンタルヘルスについては、学校（教育委員会）として十分な対策をお願いします。</p>

様式第5号

	<p>学校教育活動に関する広報を充実する。</p>	<p>ホームページを月15回以上更新</p>	A	A	<p>充実したHP及び更新内容となっている。学校への安心感が増し、社会からの認知度（信頼）向上につながります。</p> <p>都市基盤工学科のインスタグラムの取組が他学科にも拡散していくことを期待します。</p> <p>とても素晴らしいと思います。継続した努力に頭が下がります。</p>
	<p>ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。</p>	<p>ものづくり教室の実施や校外でのイベント等への参加を推進する。</p>	A	A	<p>公立学校相談会への参加は、生徒の自己有用感向上の場だと感じます。</p> <p>中学生が工業高校に目を向けるためには、幼稚園・小学校あたりからの交流や、その保護者との交流が必要不可欠と考えます。教室やイベント開催では、生徒の凄さも伝わるような内容を検討いただければと思います。</p>
	<p>校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。</p>	<p>全職員が校務で共有サーバを使用する。</p>	A	A	<p>ネットワーク環境の改善は素晴らしいことです。</p>
	<p>「業務改善を心掛けた」と答える教員60%以上</p>	<p>「業務改善を心掛けた」と答える教員60%以上</p>	A	A	<p>働き方改革や指導法の改善につながっていると思います。設定された数値目標が低かったので、見直しの検討が必要だと考えます。</p>
	<p>施設・設備の点検の日を設けPFI担当者との点検を月1回以上実施</p>	<p>施設・設備の点検の日を設けPFI担当者との点検を月1回以上実施</p>	A	A	<p>夏の酷暑の中で2%の増加で済んだことは効率な使用を行った成果です。猛暑であったので、多少の電力増加はやむを得ないと感じます。健康第一で運用してください。</p>
	<p>施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を高め、消費電力量を削減</p>	<p>施設・設備の整備、省エネ・省資源への取組を進め、コスト意識を高め、消費電力量を削減</p>	B	A	